

# 学校関係者評価委員会における主な意見

令和5年6月1日実施

## 1 入学生の確保

- ・ 少子化が進む中、入学生の確保は大変だと思います。県外からの入学生も確保し、鹿児島に定着してもらう体制も必要かと思います。
- ・ 高校生の生徒数減など厳しい状況が続くと思いますが、頑張っていたきたい。
- ・ 農業高校に加え、一般高校への募集活動など取組の強化が見られる。農大への入学生確保は、担い手や農業指導者の育成の入口となるので、農大の魅力を最大限に生かした学生募集に工夫するなど、継続して対策を講じて頂きたい。

## 2 学生教育の充実

- ・ 農家留学研修での評価が目標に達していないのは、生徒のコミュニケーション不足、スマホ依存、生活態度などが大きく影響していると思います。
- ・ 農家留学研修の派遣先は農業法人に偏っているが、法人以外にも熱意ある個別農家がいるため、個別農家との交流の場を設けることも検討していただきたい。
- ・ 全国段階のプロジェクト発表やヤンマー学生懸賞論文・作文での入賞実績は素晴らしいと思います。さらなる好成績を期待します。
- ・ 資格取得について、農業簿記の受験者や合格者が少なく感じる。本年 10 月からインボイス制度が始まることや、青色申告で自らの経営を見るスキルが重要であることを踏まえ、農業簿記資格取得については学習を強化するなど、合格率向上に努めていただきたい。
- ・ 資格受験にあたり、学生へ受験料を助成するなど、受験意欲の向上に繋がる取組を検討していただきたい。

## 3 就農・就業の進路指導の充実

- ・ 就農率の増加、工夫して少しでもあげていただきたい。
- ・ 就農率を高めるためには、非農業系高校からの学生をどう就農や雇用就農に結びつけるかが重要かと思います。また、親元での就農については、親が元気なうちは実家ではなく、他業種への就職や研修を選択する学生もいるのではないのでしょうか。
- ・ 就農率だけの目標設定が適正なのか疑問である。就農以外の進路選択も多いことから、農業指導者や農業関連会社も含めた目標を設定したらどうか。
- ・ 就農・就業の前段階として、学生にはインターンシップを積極的に取り組んで欲しい。  
特に、直接就農する学生は、社会人との交流がないままで就農することになり、社会経験が必要と思われる。

#### 4 情報発信の強化

- ・ 若い世代が利用しているInstagramやツイッターでの配信が大切だと思います。  
フェイスブックは30代や40代が使っており、ターゲットに合わせた情報発信が重要と考えます。  
授業や実習だけでなく、寮生活、部活動なども配信していただければと思います。
- ・ Instagramのフォロア数を増やせるよう工夫が必要だと思います。
- ・ 農業大学校は、情報ごとのアクセス状況を分析するなど、もっとSNSの発信力を強化すべきであると思う。
- ・ HP・Instagramや YouTube などのSNSは検索数やフォロアー数も大事ですが、発信目的と見てもらいたい者に届いているのか等の検討を深めてください。

#### 5 前年の評価委員の意見を踏まえた、学校運営改善への取組

- ・ 評価委員の意見に対して組織として取り組んで頂いていると評価します。
- ・ 評価委員の意見には、短期的な改善として取り組めるもののほか、長期的に継続して取り組むべきものがあると思いますので、区分して整理していただくと分かりやすいと考えます。

#### 6 その他

- ・ 全国一の農業大学校を目指して、学生の学力、技術の向上を望みます。先生方のご指導よろしくお願いします。
- ・ 農業高校との更なる連携をよろしくお願いします。
- ・ 本年度の重点項目に対する取組内容は、パワーポイントを使い、写真やグラフなど視覚的にとてもわかり易かったと思います。